

公益社団法人日本山岳会埼玉支部

2022年（令和4年）度活動方針

今年になって、新型コロナウイルスのデルタ株から変異したオミクロン株は年代を問わず急激な感染拡大となり、1月21日から3月21日の予定で、まん延防止等重点措置が発出されています。

政府や自治体が推進する3回目のワクチン摂取計画の推進も芳しくなく、新型コロナウイルス対策の遅れが経済活動や日常生活に及ぼす影響が懸念されています。

われわれを取り巻く登山環境も、感染症防止策を講じた活動が求められ、団体行動の自粛による3密（密閉・密集・密接）回避、等々。登山における宿泊も大きな変貌を遂げました。新たな登山の在り方を模索する機会でもあります。

このような先行き不透明な状況下ですが、4月3日(日)、埼玉県障害者スポーツ協会と共催する大久保春美記念・第12回「ふれあい登山」は、東武東上線寄居駅から鐘撞堂山周辺を予定しています。

公益事業として評価も高く、登山を通して障がい者と交流する貴重な機会でもあり、社会貢献事業として支部を特徴づけるイベントです。

また、一般登山者を対象にした登山教室の第4期「埼玉やま塾」は、新型コロナウイルス対策を講じて開講します。組織を担う新会員の誕生につなげたいからです。

日本山岳会120周年記念事業の一環として、「全国山岳古道調査」を実施中ですが、今年度も埼玉の歴史と古道に関する研究者を講師に講演会を開催します。また、古道調査活動についても、支部会員の皆様の積極的なプロジェクトチームへの参加・協力は勿論ですが、広くSMSCA傘下及び古道愛好家に参加を仰ぎ、埼玉支部の総力で取り組む所存です。

今、日本山岳会の大きな課題は、高齢化が進む一方で若手会員の入会が少ないため、会員減少に歯止めがかからない状況です。傘下の各支部も同様の課題を抱えています。

埼玉支部も登山界で活躍された諸先輩たちが多数在籍していますが、高齢化により、岩稜歩きや冬山登山に同行を求められても一緒に行動できない状況です。また、指導者やリーダー不足が顕著です。従って、入会しても登山の知識や技術を学ぶ機会がなければ、やがて退会します。

自分の求める登山ができなければ組織に魅力を感じないからです。埼玉支部に在籍することが付加価値になる、魅力ある組織に変えたい。ここに若返りを図る理由があります。課題は山積していますが、登りたい山が登れる登山者が増加すれば可能性が広がります。

また、平川陽一郎会員が日本山岳会理事に就任したことで、日本山岳会主催の各種講習会への参加及び関連団体主催の岩場訓練、雪山訓練など、登山技術と知識の向上を図り、次世代を担う指導者やリーダーの育成環境を改善します。

埼玉支部の諸活動は、「仲間の安全・家族の安心」を掲げて取り組みます。山行委員会は、月例山行や平日山行の企画、等。従来の山行計画に加えて、支部会員の多様な指向に合わせた目的別登山（例：百名山の場合、岩トレ、雪山訓練、等）を実施します。それは山岳会に入会した個々人の動機を尊重したいからです。

安全登山委員会は、安全登山に関する情報の共有化及び緊急時の対処方法（登山届の管理、等）、等。具体的な実技訓練を通して知識・技術力の向上を図ります。自然保護委員会は、自然観察会、森づくり活動など、多様な公益事業活動を展開します。社会貢献委員会は、埼玉県障がい者スポーツ協会と共催のふれあい登山、清掃登山活動、等の公益事業活動に取り組みます。

広報委員会は、支部報発行及び支部ホームページの管理、オンライン会議導入に関する指導及び管理、等。迅速な情報の共有化が組織の活性化と新規会員増に貢献できるものと確信しております。